

学校自慢

長年の成果を生かすとき

成田市立大栄中学校長 あべ みつお 阿部 光雄



1 はじめに

本校は成田市の東部に位置する旧大栄町を学区としており、台地の中央を流れる大須賀川が利根川に注ぎ入る。畑作地帯が水田を取り巻くように高台に存在しており、成田国際空港と鹿島臨海工業地域に挟まれた国道51号線沿いの地域である。

昭和58年に大須賀中と昭栄中が統合され、大栄町立大栄中学校となり、その後、平成18年の市町村合併により、校名が成田市立大栄中学校となった。更に、令和3年4月には学区の五つの小学校を統合し、中学校の敷地に新校舎を建設し、義務教育学校「大栄みらい学園」として新たな歩みが始まる。

2 学校自慢

(1)小中連携

現在行われている大栄中学校区の小中連携（5小1中）は平成19年度から始まった。

大栄地区校長会で「みんなの約束」を設定し、それに基づいた指導を行った。当初は、各校の生徒指導担当職員が、学期に一度輪番制で会場校に集まり、授業参観や児童生徒の情報交換を行っていたが、年を追うごとに様々な連携が行われるようになった。職員交流は、相互授業参観や夏季休業中の合同研修会、懇親会、音楽科担当職員の実技研修会を行ってきた。児童生徒交流は、小学校運動会への中学生ボランティア（1学年）の参加や中学校体育祭への児童参加、中学校合唱コンクールへ6学年児童の参加などを行ってきた。また、合同校外学習を実施しており、5校合同宿泊学習（5学年）も計画されている。

そのほかにも合同学校保健委員会を開催し、小中の養護教諭が学区の児童生徒に共通する保健的テーマを掲げ、各学校医をはじめ、保護者代表も参加し、熱心な話合いや講演会を通して、義務教育9年間を意識した保健指導を実施している。

(2)義務教育学校開校を見据えて

冒頭でも触れたが、本校は令和3年4月に成田市で2校目の義務教育学校となる。そのこともあり、これまで取り組んできた小中連携が更に充実するとともに、組織もしっかりとしてきた。

現在は、学校運営・教職員連携部会（校長中心）、教育課程部会（教務主任中心）、生徒指導部会（生徒指導担当職員中心）、行事・交流活動部会（研究主任中心）、地域連携部会（各校保護者代表）、事務部会、健康教育部会に分かれ、学校運営を除く全ての部会に教頭が関わっている。また、協議内容によっては市教育委員会や地域の方も加わり、部会ごとに様々な話合いを重ねている。

このように、複数の部会に分かれての活動がスムーズに行えるのも、これまでの大栄中学校区の小中連携活動があつてのことと感じている。

3 おわりに

これまで取り組んできた小中連携の成果を基礎に、教育理念である「今までにない新しい学校を創ろう」～小学校・中学校の垣根をなくし、9か年を通してふるさと大栄を愛し、郷土として誇れる『大栄っ子』を地域とともに育てる～に向けて励んでいきたい。